

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

例年だと5月頃に冬物と春・夏物の衣料を入れ替えるが、朝夕の寒暖の差が気になり体調を気遣う毎日だ。新型コロナウイルス関連

の情報番組が益々「ワイドショー化」して視聴率競争の番組構成は、タレント枠や文化人枠で出演するコメントーターの発言は、庶民の声の代弁者ではなく専門家としての役割が求められるためか、発言した内容が視聴者に意に沿わなければネット社会で痛烈な非難攻撃だ。昔から十人十色という言葉がある通り、日本人は、異論には寛容であったはずだ。対面が無いという社会には恐ろしささえ感じしてしまう。

賑わう季節だが、多くの学習旅行が秋に変更、しかし休校が長引き、生徒の学習時間を確保するために、夏休み・冬休み・学習旅行を中止する情報が伝わってくる。そして夏のスポーツ大会の中止

吉田口登山道にある山小屋16軒は、7月1日～9月10日の夏山シーズン中一斉休業。休業理由として、救護所の医師や看護師らの確保、山小屋内での密閉・密集・密接の「3密」を避けたりするの

## 安全な登山を提供する基準の明確化が求められている

安全を最優先。「危ない目に遭ってから教訓を得る」というスタイルでやっている、いずれは本当にひどい目に遭うと忠告している。4月に八ヶ岳連峰・阿弥陀岳近くで県警のヘリコプターで救助された男性が一時新型コロナウイルス感染の疑いが浮上して、結果が出るまで県警山岳遭難救助隊員らが自宅待機を余儀なくされた。本格的なシーズンを迎えて山岳救助が機能しない恐れが否定できない。定員を減員して営業したとしても宿泊者に感染の疑いが発

生すれば、山小屋関係者の対応は可能なのだろうか。もし陽性ならば対応した山小屋関係者の下山をどうするのか、他の宿泊者の対応

はどうするのか。本当に厄介な感染症に気を揉むばかりだ。(NPO法人信州地域社会フォーラム会員)



白馬岳など山岳地域への入山規制の知恵が必要だ